

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3185547号  
(U3185547)

(45) 発行日 平成25年8月22日(2013.8.22)

(24) 登録日 平成25年7月31日(2013.7.31)

(51) Int.Cl.

A 4 7 J 47/00 (2006.01)

F 1

A 4 7 J 47/00

C

評価書の請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 実願2013-3269 (U2013-3269)  
(22) 出願日 平成25年6月10日(2013.6.10)(73) 実用新案権者 593032983  
株式会社川崎合成樹脂  
新潟県三条市下保内401番地17  
(74) 代理人 100084102  
弁理士 近藤 彰  
(72) 考案者 川崎 国雄  
新潟県三条市下保内401番地17 株式  
会社川崎合成樹脂内

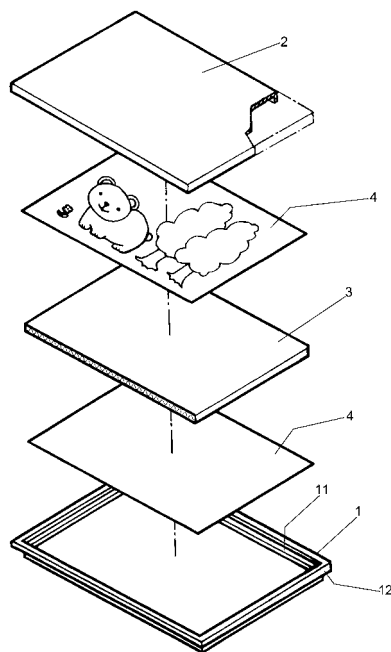
(54) 【考案の名称】 俎板

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】製造容易で軽量化され且つ耐久性を備え、必要に応じて所望の絵柄で装飾した俎板を提供する。

【解決手段】扁平箱型形状の上下板（第一透明板1、第二透明板2）と、上下板を相対向させ周壁部分を接ぎ合わされて形成される扁平空間を満たす板状心材（段ボール3）とで俎板本体が構成され、上下板の一方に他方の周壁端面部分が密着載置される内周段差部11を設けて接ぎ合わせ、内周段差部の外周部分を俎板基体の側面からの突出条12に形成し、突出条の上下面及び外周を被覆するようにして、上下板の接ぎ目を含む俎板基体の全側面を、成形手段によって形成した柔軟縁部で密封する。板状心材の表面に適宜な模様色彩を施した紙シート4を配置すると装飾俎板となる。

【選択図】 図2



**【実用新案登録請求の範囲】****【請求項 1】**

扁平箱型形状の樹脂製の上下板と、上下板を相対向させ周壁部分を接ぎ合わされて形成される扁平空間を満たす軽量板状心材とで俎板本体が構成され、上下板の一方に他方の周壁端面部分が密嵌載置される内周段差部を設けて接ぎ合わせ、前記内周段差部の外周部分を俎板基体の側面からの突出条に形成し、突出条の上下面及び外周を被覆するようにして、上下板の接ぎ目を含む俎板基体の全側面を、成形手段によって形成した縁部で密封してなることを特徴とする俎板。

**【請求項 2】**

上下板を透明又は半透明材で形成すると共に、軽量板状心材の表面に適宜な模様色彩を施した紙シートを配置してなる請求項 1 記載の俎板

10

**【請求項 3】**

縁部をエラストマー樹脂で形成して柔軟縁部としてなる請求項 1 又は 2 記載の俎板。

**【請求項 4】**

縁部の隅部表裏に小突起を設けてなる請求項 1 乃至 3 記載の何れかの俎板。

**【請求項 5】**

軽量板状心材を段ボール紙で形成してなる請求項 1 乃至 4 記載の何れかの俎板。

**【考案の詳細な説明】****【技術分野】****【0001】**

20

本考案は、取扱い容易な軽量俎板並びに色彩模様（図柄）などが表示された装飾俎板に関するものである。

**【背景技術】****【0002】**

軽量俎板としては、中空体の樹脂製俎板が知られているが、中空体の俎板は、その表裏方向から外力が加わると凹み易く、また内部空気の熱膨張なども加わるので、樹脂板が薄いと変形し易く、厚くなると堅牢性が高められるが軽量化とは相反することになる。

**【0003】**

堅牢性と軽量化の双方を満たすものとして、特許文献 1（特開平 10 - 155669 号公報）には、上下板で形成される内部空間に発泡樹脂板を心材して充填する構成が開示されている。

30

**【0004】**

また俎板に図柄等を表現した装飾俎板の例として、特許文献 2（実開平 3 - 10835 号公報）に、使い捨て宣伝広告用俎板を使用目的とした俎板で、俎板基体となる発泡スチロール板の表面にポリエチレン平板を重着する際に、両者の間に印刷物を介在させる構造が開示されている。

**【0005】**

また特許文献 3（実用新案登録 3134029 号公報）には、俎板基体の表面に図柄部を印刷し、透明シート材を積層させた構造が開示されている。

40

**【先行技術文献】****【特許文献】****【0006】**

【特許文献 1】特開平 10 - 155669 号公報。

【特許文献 2】実開平 3 - 10835 号公報。

【特許文献 3】実用新案登録 3134029 号公報。

**【考案の概要】****【考案が解決しようとする課題】****【0007】**

特許文献 1 に開示されている扁平容器状の上下板の組み合わせ構造によって俎板の軽量化を実現することができるが、上下板の連結は、突起と受筒の嵌合構造であり、衝撃力が

50

加わった場合には、上下板が分離してしまう虞がある。

【 0 0 0 8 】

また俎板の装飾に関しては、前記特許文献 2 , 3 に開示されているように、透明シート部材を重ね合わせる手段で製造した場合は、透明シート部材の剥離対策が必要であり、耐久性に問題がある。またシート部材自体に対して包丁が直接当たるので、相応の耐久強度が必要であり、耐久強度を高めると当該透明シート部材が厚くなり、シート部材を採用したメリットが無くなる。

【 0 0 0 9 】

前記特許文献 1 において、上下板を透明板として、前記特許文献 2 , 3 で示された装飾手段をそのまま採用しようとしても、芯材表面側に表示した図柄は、上下板の連結構造部分で邪魔されて、所望の装飾を実現することができない。また単に上下板を連結したのみでは、上下板の接ぎ目に対する水密性の確保が困難である。

10

【 0 0 1 0 】

そこで本考案は、軽量で、図柄表示をも容易に実現できる、耐久性に優れた製造容易な新規な俎板を提案したものである。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 1 1 】

本考案（請求項 1）に係る俎板は、扁平箱型形状の樹脂製の上下板と、上下板を相対向させ周壁部分を接ぎ合わされて形成される扁平空間を満たす軽量板状心材とで俎板本体が構成され、上下板の一方に他方の周壁端面部分が密嵌載置される内周段差部を設けて接ぎ合わせ、前記内周段差部の外周部分を俎板基体の側面からの突出条に形成し、突出条の上下面及び外周を被覆するようにして、上下板の接ぎ目を含む俎板基体の全側面を、成形手段で形成した縁部で密封してなることを特徴とするものである。

20

【 0 0 1 2 】

而して前記俎板の基体は、上下板と板状心材で構成されるために軽量化を実現している。更に上下板の全側面には縁部が形成されるが、前記縁部は射出成形等によって上下板の接ぎ合わせ箇所（接ぎ目）も含めて、突出条を覆うように形成されるので、樹脂材料を適宜選択することで、上下板と縁部は樹脂の一体成型によって堅牢に接着され、且つ縁部に外力が加わっても突出条を被覆するように設けられているので、離脱耐久性に優れたものとなる。

30

【 0 0 1 3 】

また本考案（請求項 2）に係る俎板は、上下板を透明又は半透明材で形成すると共に、板状心材の表面に適宜な模様色彩を施した紙シートを配置してなるもので、接ぎ合わせて一体化した下板（第一透明板）及び上板（第二透明板）からは、所望の図柄印刷した紙シートを視認できると共に、俎板基体の側面部分は、露出が無いように全周面を密封しているので、内部に水が侵入することなく、紙シートが侵入水によって汚れるようなことが無い。

【 0 0 1 4 】

またまた本考案（請求項 3）に係る俎板は、縁部をエラストマー樹脂で形成して柔軟な縁部としてなるもので、俎板基体の角縁を無くしているので、取扱いにおいて安全である。

40

【考案の効果】

【 0 0 1 5 】

本考案の構成は上記のとおりで、上下板及び内部空間を充たす軽量板状心材で構成される俎板基体は軽量であり、且つ俎板基体の側面の突出条と成形手段で形成される縁部を備えることで、堅牢性を実現したものである。更に装飾俎板とする際には、透明の上下板と図柄模様は印刷された紙シートを採用すれば良いもので、安価で所望の図柄を備えた装飾俎板を得ることができる。また特に縁部にエラストマー樹脂を採用することで、縁部が柔らかく怪我する恐れが無く装飾性と相俟って子供用俎板として適するものである。

【図面の簡単な説明】

50

【 0 0 1 6 】

【 図 1 】 本 考 案 の 実 施 形 態 の 全 体 図。

【 図 2 】 同 分 解 斜 視 図。

【 図 3 】 同 要 部 断 面 図。

【 考 案 を 実 施 す る た め の 形 態 】

【 0 0 1 7 】

次に本考案の実施形態について説明する。実施形態に示した例は装飾俎板で、第一透明板（下板）1、第二透明板（上板）2、板状心材として採用した段ボール3、紙シート4、及び柔軟縁部（縁部）5で構成される。

【 0 0 1 8 】

第一透明板1及び第二透明板2は、俎板基体となるもので、PP樹脂製で俎板として機能する所定の硬度を備え、矩形或いは卵形等の所望形状の扁平容器に形成したものである。前記第一透明板1は、第二透明板2の周壁部21が密嵌合する内周面と前記周壁部21が載置される内周段差部11を設け、前記内周段差部11の外周部は、第二透明板2を嵌合装着して継ぎ合わせた際に、俎板基体の側面からの突出条12としたものである。

【 0 0 1 9 】

そして両透明板1, 2を対向装着した際に、内方に適宜厚さの扁平空間が形成され、継ぎ合わせ装着（嵌合装着）された両透明板1, 2の外周面全周の上下中間に、前記突出条12が形成されるものである。

【 0 0 2 0 】

段ボール（板紙）3は、両透明板1, 2で形成される前記扁平空間と一致する厚さ及び大きさとしたものであり、紙シート4は、所望の色彩模様を印刷等の手段で表示したもので、段ボール3の表裏に配置し、段ボール3と共に、両透明板1, 2を組み合わせる前に扁平空間を構成する箇所に収納するものである。

【 0 0 2 1 】

柔軟縁部5は、エラストマー樹脂で形成されるもので、段ボール3及び紙シート4を収納して両透明板1, 2を嵌合装着した状態で、所定の樹脂成型機を使用して、対向する両透明板1, 2の接ぎ目を含む全側面を、両透明板1, 2の表面である俎板基体の上下面と一致させ、或いは上下面よりも僅かに上下に膨出させて密封するようにしてなる。

【 0 0 2 2 】

また特に前記柔軟縁部5を形成する際には、俎板の隅部となる表裏面に小突起51を形成してなるものである。

【 0 0 2 3 】

而して前記の装飾俎板は、俎板の表面から透明板1, 2を通して内部の紙シート4の図柄を視認でき、且つ紙シート4の図柄は、印刷物等を使用することができるので、簡単に所望の図柄の装飾を備えた俎板を提供できるものである。

【 0 0 2 4 】

また柔軟縁部5で両透明板1, 2の接ぎ目を含む側面全周を密封しているので、俎板の使用に際しても内方の扁平空間に水が浸入することなく、紙シート4が劣化することが無い。更に小突起51によって俎板が安定して作業面上に載置でき、而も俎板外周が柔軟であるために、危険もなく安全に使用できるものである。

【 0 0 2 5 】

尚本考案は前記実施形態に限定されるものではなく、例えば上下板は、前記透明板1, 2を採用せずに通常の俎板（非装飾俎板）としても良い。また柔軟縁部5を採用せず硬質樹脂を採用した縁部でも良い。

【 0 0 2 6 】

更に板状心材として、段ボール3の他に発泡樹脂板、紙製又は樹脂製のハニカム構造板、樹脂製の段ボール構造板等を採用できるものである。

【 符号の説明 】

【 0 0 2 7 】

10

20

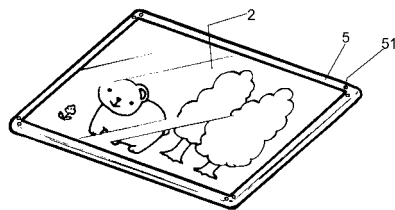
30

40

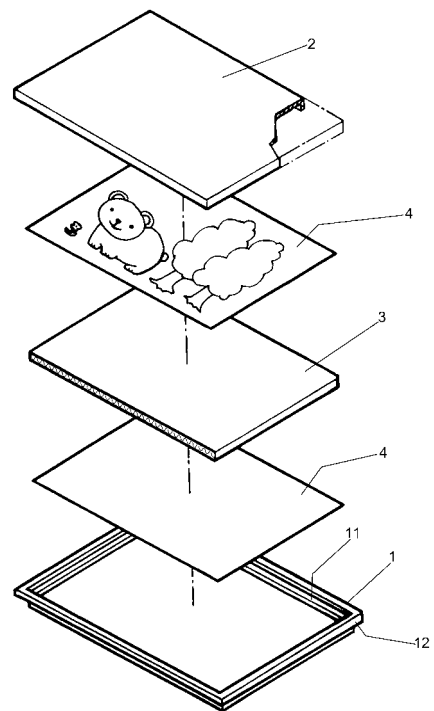
50

- 1 第一透明板（下板）
- 1 1 内周段差部
- 1 2 突出条
- 2 第二透明板（上板）
- 2 1 周壁部
- 3 段ボール（板状心材）
- 4 紙シート
- 5 柔軟縁部（縁部）
- 5 1 小突起

【図 1】



【図 2】



【図 3】

